

平成 22 年度「高校交通教育の実践」モデル校事業報告書

学校名	兵庫県立夢前高等学校	課 程	全 ・ 定
校長名	橋 本 英 俊	担当者	中 西 勇
所在地	〒 6 7 1 - 2 1 0 3 兵庫県姫路市夢前町前之庄 6 4 3 - 1 Tel 079-336-0039 Fax 079-336-0585		
生徒数	男子 1 5 2 名 女子 1 9 3 名 計 3 4 5 名		
通学手段	徒 歩 : 7 名 自転車 : 3 0 1 名 J R : 2 5 名 バ ス : 4 2 名		
特 色	<p>本校は、姫路市の北部にあり周囲を山々に囲まれた自然豊かな夢前町に位置する。最寄りの鉄道の駅から遠く、公共交通機関が路線バス 1 路線だけという環境の中で、徒歩通学や自転車通学をする生徒の割合が高く、遠距離を自転車で通ってくる生徒も少なくない状況である。生徒が自転車通学で利用する道路は兵庫県の中央部を東西に走る県道や姫路市と夢前町を結ぶ県道であり、朝夕の交通量が非常に多い。</p> <p>このような状況の中、本校では、通学途中の生徒の交通事故を防止するため、複数回の自転車点検の実施、全校集会や学年集会、LHR 等における交通安全や交通マナー等に関する指導等を通して、生徒の交通安全に関する意識の高揚を図ると共に、自他の命を大切にすることを育成している。</p>		

1 実施状況

(1) 取組テーマ

「命を大切にすることを通した交通安全教育の実践」

(2) 取組内容

ア 交通安全教育の取り組み

(ア) 交通法規等に関する学習の実施

- ・ 毎月月初めに実施している全校集会やLHRの時間に、生徒に身近な事例に焦点をあて、具体的な例を挙げながら交通法規等に関する学習を行った。また、ほとんどの生徒が携帯電話を所有しており、携帯音楽プレーヤーを所有している生徒も多いことから、自転車運転中に携帯電話や携帯音楽プレーヤーを使用することの危険性に関して特に重点的に指導を行い、自転車運転中に使用しないよう指導を徹底した。

(イ) 地域住民を対象としたアンケートの実施

- 本校周辺には交通量の多い幹線道路や狭く入りくんだ道路、信号のない農道等があり、交通事情はよくない。生徒が自動車と接触するような交通事故も毎年複数起きている。このような事情から、まず、地域住民を対象としたアンケートを実施し、生徒の自転車通行マナー等について率直な意見を聞いた。地域住民からは、一部の生徒の自転車通行マナー等について、「農道を2列3列で並進している生徒がいる。」、「一部の生徒がきつい下り坂をスピードを落とさず通行して危険を感じる。」等の意見が寄せられた。この結果を受け、本校では、全校集会等で再度交通マナーや事故防止等について再度注意・指導を行うと共に、朝・夕の交通立ち番を修正し、危険な箇所重点的に配置して生徒を指導することにした。その結果、地域住民からの苦情もなくなった。



(ウ) 交通安全週間中の啓発活動の実施

- 交通安全週間中の啓発活動として、「交通安全啓発のぼり」を作成し、学校周辺に掲げた。また、本校生徒が啓発ポスターを描き、それを縮小してポケットティッシュに入れて、近隣の役所等関係機関に配布した。さらに、交通安全週間中に、生徒会役員や教員、保護者が校門付近に立ち、登校する生徒や地域住民に交通安全の重要性を訴えた。



(エ) 交通講話、「Safety Action21」を活用したLHRの実施

- 地元の2駐在所と連携しながら、2名の警察官を講師に招き、全校生徒を対象とした交通講話を行った。学校周辺の交通事情や危険箇所等、具体的な事例を挙げながら分かりやすく講演してもらった。また、「Safety Action21」を活用したLHRも行った。教材中の「通学路の危険箇所マップづくり」を参考に、地元の駐在所とも連携しながら「通学路危険マップ」の作成に取り組んだ。



イ 命を大切にする教育の取り組み

(ア) 地域でのボランティア活動の実施

- ・ 地域の美化を目的として、生徒会を中心に学年単位や部活動単位で学校周辺の道路や夢前川の河川敷等の清掃活動を定期的に行った。地域住民からの感謝を耳にし、生徒の中に「自分たちは地域に貢献している」という自信が生まれ、自己有用感が高まった。また、地域住民と協力してボランティア活動等に取り組むことにより、コミュニケーション能力の必要性に気付くことができた。



(イ) 高齢者とのふれ合い交流の実施

- ・ 吹奏楽部やコーラス部の生徒が、地元の高齢者福祉施設を訪問し、歌声や演奏を披露した。また、1年生の生徒が、学校周辺に居住する高齢者の自宅を訪問し交流した。これらの取り組みを通して、高齢者福祉の現状について学ぶと共に、他者を優しく思いやる気持ちを育んだ。



(ウ) 幼稚園児、小学生との交流の実施

- ・ 体育大会（6月実施）や文化祭（11月実施）に地元の幼稚園児を招待し、生徒が幼稚園児と一緒に演技を行う等、有意義で楽しい交流を行った。また、本校菜園でボランティア同好会が育てたさつまいもを幼稚園児と一緒に収穫する交流芋掘りを行った。これらの交流の中で、「必要とされる」経験を通して生徒の自己有用感が高まると共に、自分より弱い立場の人を思いやることの大切さを学ぶことができた。



(エ) 地元ケーブルテレビと連携した英会話番組の制作

- ・ 地域に貢献する活動の一つとして、地元CATV局と連携し英会話番組を制作した。地元の中学校を本校の教員やALT、生徒が訪問し、インタビューを行うなどして番組を制作した。生徒が、CATV局の担当者や教員等と連携して番組を制作していくことで、生徒の社会性やコミュニケーション能力を育成することができた。



(オ) なかよしカルタ（いじめ防止カルタ）の制作

- ・ いじめを未然に防止する取り組みの一環として、1年生の生徒が「なかよしカルタ」を作成し、近隣の幼稚園、小学校に配布すると共に、幼稚園児や小学生を招待して交流カルタ大会を開催し、交流を深めた。カルタの制作を通して、些細なことからいじめが起こる可能性があることに気づくと共に、自他の命を大切に思う気持ちや他者への思いやりの気持ちを育むことができた。



2 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 本事業の取り組みを通して、本校の置かれている交通事情や通学途中の危険箇所について認識を新たにすることができた。さらに、地域住民アンケート等から本校生徒の交通マナーの問題点が明確になり、自転車の並進や自転車運転中の携帯電話使用の禁止等、具体的にポイントを絞った指導を行うことができ、マナーの改善につながっている。
- ・ 地元駐在所の警察官による交通講話や「Safety Action21」を活用したLHRの取り組みを通して、それまで交通事故について意識が低かった生徒の意識が変わった。生徒に対して行った交通マナーに関するアンケート結果からも、自分が交通事故の被害者になるかも知れないという意識に加え、自転車運転中に歩行者等と接触するなど自分が加害者になる可能性についても意識するようになったことが窺える。
- ・ 命を大切にする教育として実施した地域でのボランティア活動や高齢者福祉施設等の訪問、幼稚園児や小学生との交流等様々な活動を通して、自分や他者の命や存在を大切に思う心、自分より立場の弱い他者への優しい思いやりの心を育むことができた。その結果、登下校中の交通安全や、道路ですれ違う高齢者や幼児への配慮等、交通マナー遵守についての意識が高まった。

(2) 今後の課題

- ・ 1年間の本事業での取り組みで、生徒の交通安全に関する意識を高めることができたが、いまだに交通マナー違反をしている生徒がいる。また、自転車通学者が大部分であること、学校周辺の道路事情が悪い上、ここ数ヶ月で幹線道路を中心に自動車の交通量が増加していること等、生徒が登下校中に交通事故に巻き込まれる危険性が依然として高い状況である。したがって、今後も交通講話、交通安全週間の啓発活動等の交通安全教育を継続して行うことで、生徒が安全に安心して登下校できる環境作りを整備していきたい。